

# 野村アセットマネジメント エンゲージメント活動 ご紹介

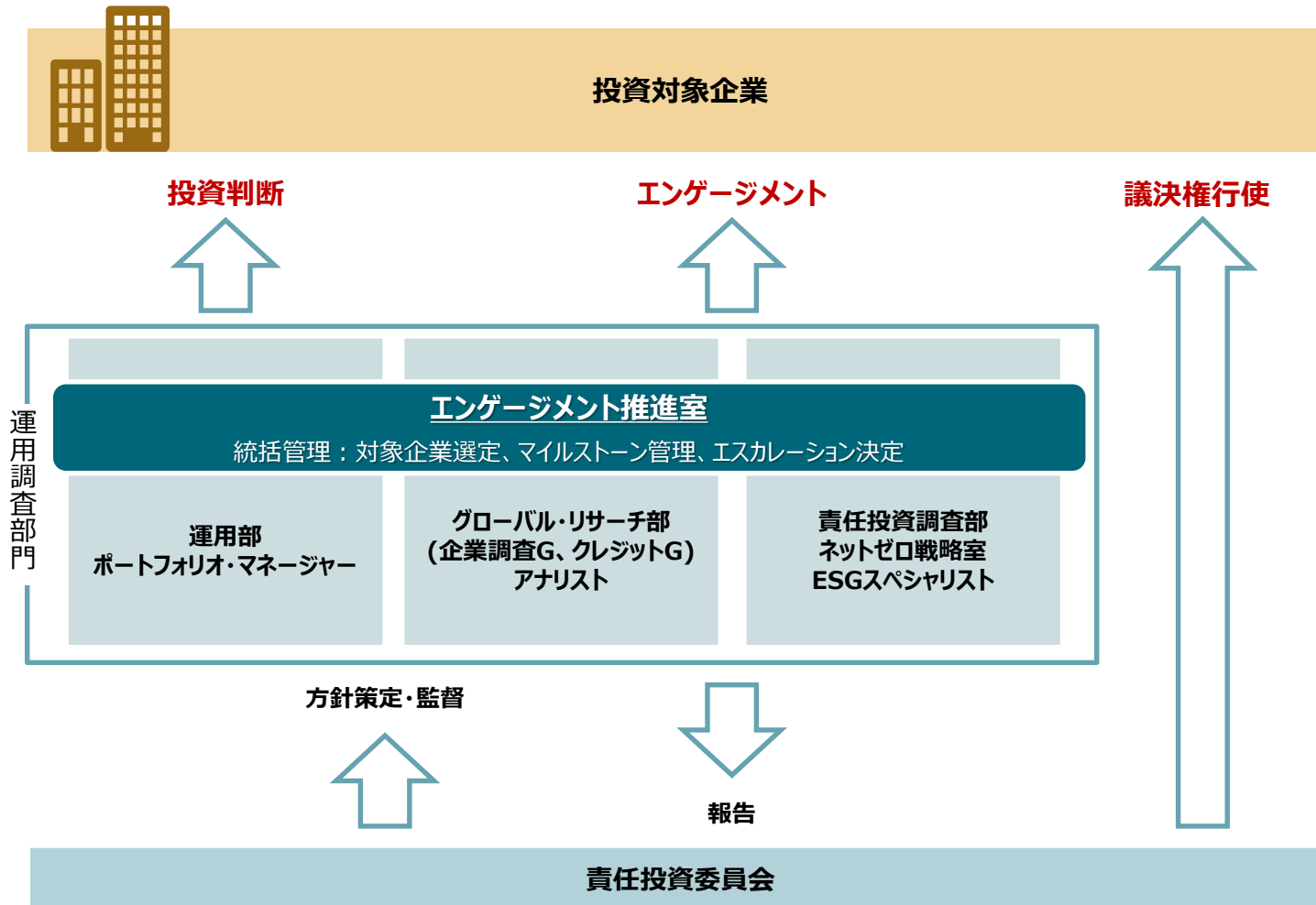
2023年10月11日

Expertise to  
Exceed

**野村アセットマネジメント**

STRICTLY PRIVATE AND CONFIDENTIAL

# 野村アセットマネジメント エンゲージメント推進体制



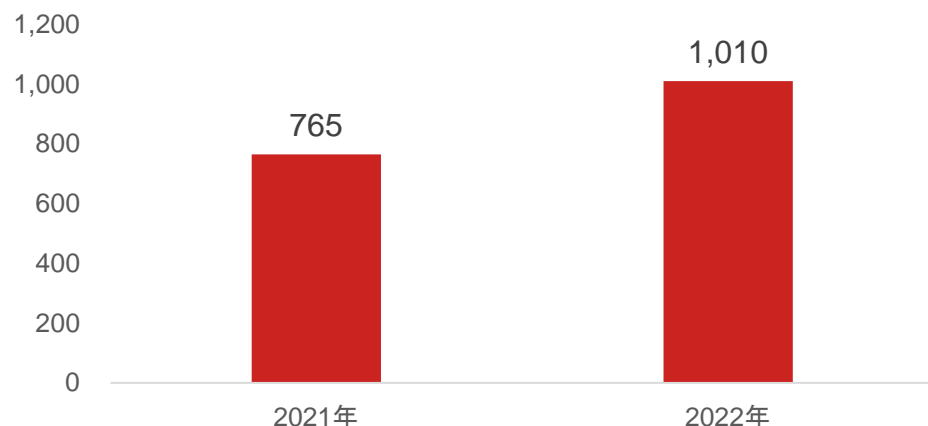
部署名	人数
エンゲージメント推進室	10名
グローバル・リサーチ部 (企業調査G、クレジット調査G)	25名
責任投資調査部	11名

※2023年8月末時点

# 野村アセットマネジメント エンゲージメント活動実績

- 2022年は1,010件のエンゲージメント活動を実施。(対話先企業は520社)
- 対話先は役員以上が半数 (571件)

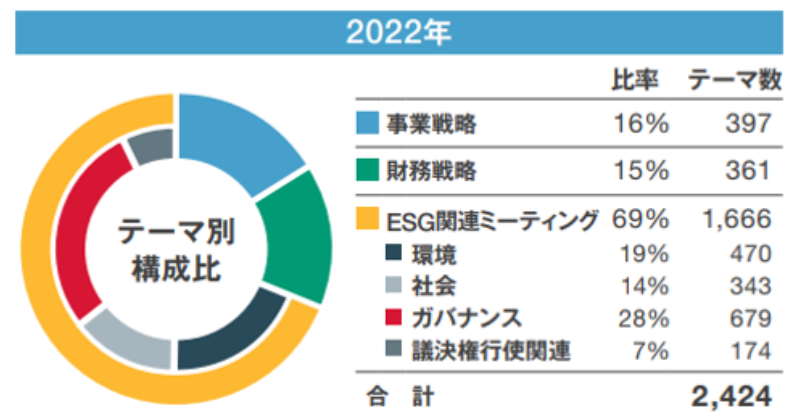
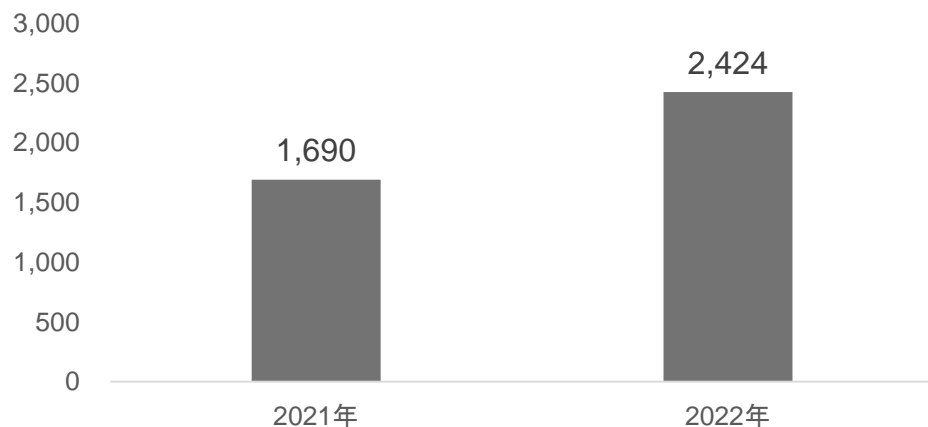
エンゲージメント・ミーティング件数 (国内企業のみ)



エンゲージメント活動の対話先 (2022年)

相手先	件数
社外取締役	15
社長	201
取締役、執行役員	355
部長	203
部長未満	236
総計	1,010

エンゲージメント活動で取り上げた、エンゲージメントテーマ (国内企業のみ)



# エンゲージメント事例 製造業A社様

## エンゲージメントの流れ

### 製造業A社の課題

資本効率性が低下傾向。課題をかかえた事業はあるが、中期経営計画において部門別のROICの目標開示はなし



### エンゲージメントの概要

事業ポートフォリオの再構築を視野に部門別ROICと資本効率向上策の公表を求める



### 会社側の対応

- ・CFOとのミーティングにおいて、課題認識を共有
- ・社外取締役とのミーティングにおいて課題を認識し、改革を後押し



### エンゲージメントの成果

次期中期計画において、部門別ROICの目標を開示  
加重平均資本コスト（WACC）の推定値を開示

## エンゲージメントの履歴

2020年6月・・・CFOとのミーティング

- ・長期の資本効率分析から事業部門別ROAを試算
- ・ROIC目標管理のため、部門別目標管理の重要性を指摘

2021年9月・・・社外取締役とのミーティング

- ・コングロメリット経営の課題について議論
- ・資本効率についての議論
- ・外部に対する発信力の不足と課題認識を共有

2022年10月・・・CFOとのミーティング

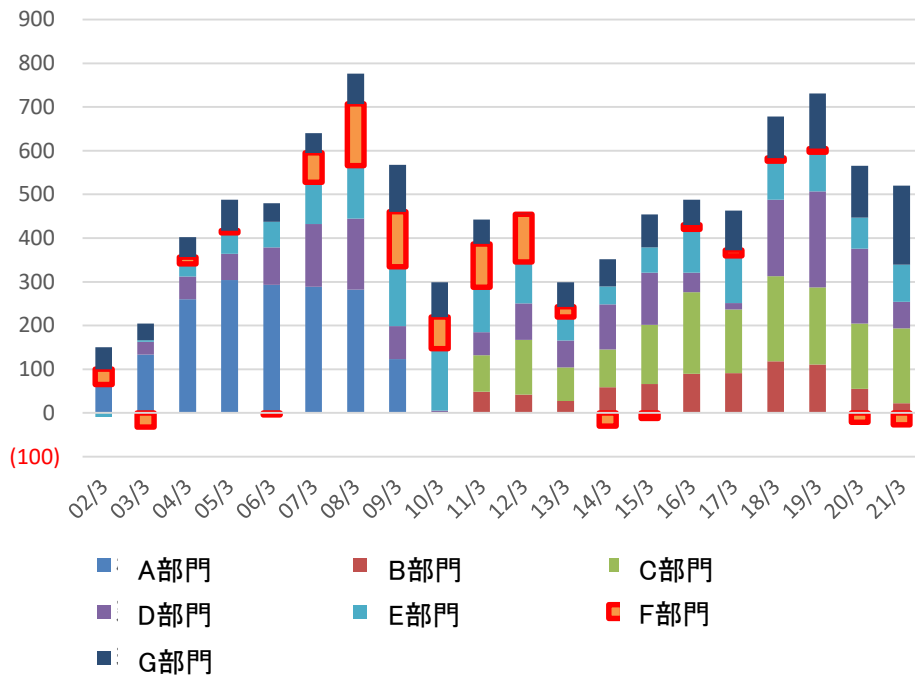
- ・10月に公表した新セグメント、組織の再編について議論
- ・次期中計において、ROIC管理とあるべき姿を明示することの必要性を確認

2023年9月・・・CFOとのミーティング

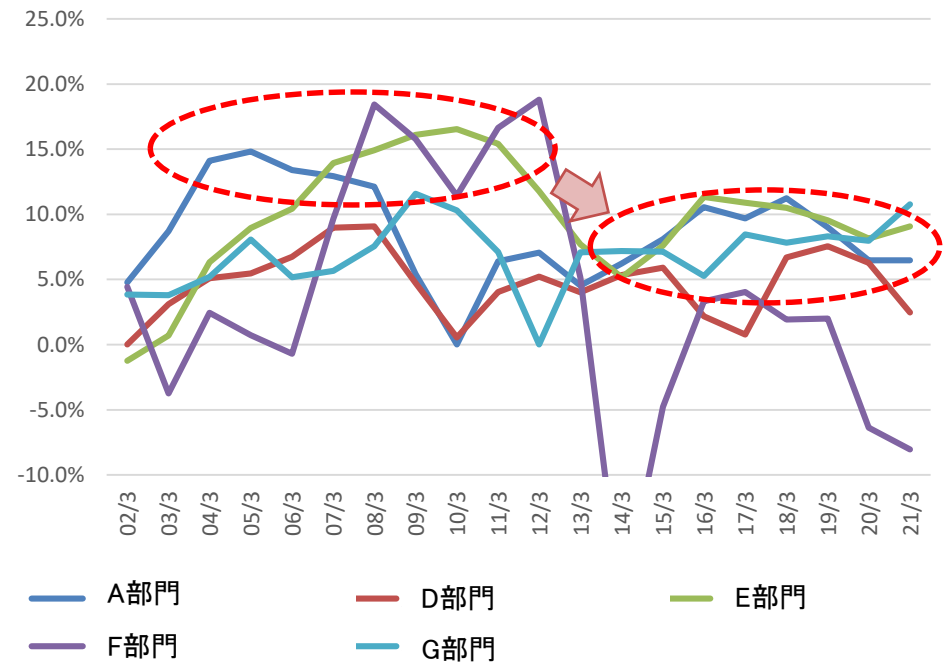
- ・公表した次期中期計画について議論
- ・部門別ROIC管理に時間軸の視点を加えることを要望

# セグメント別 営業利益 20年推移

セグメント別 営業利益推移 (億円)

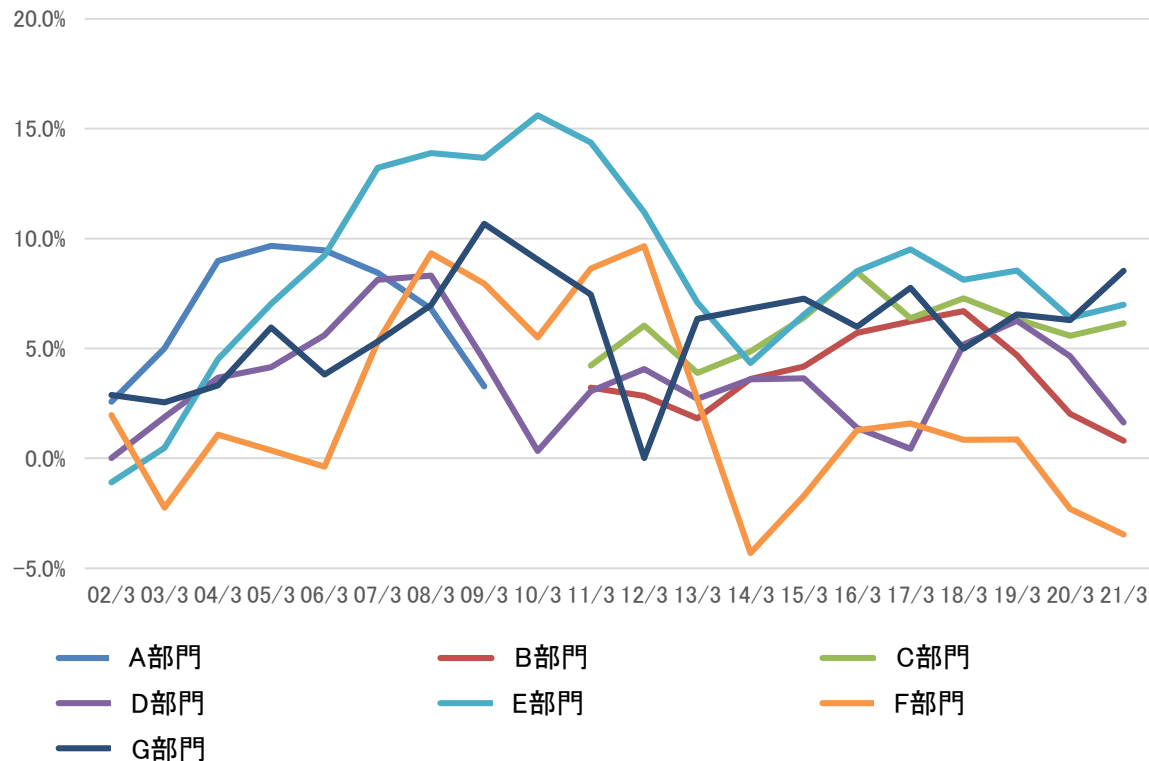


セグメント別 営業利益率推移



# セグメント別 ROA 20年推移

推定) セグメント別 ROA推移 (注1)



<02/3期→11/3期の10年間>

A部門 9.2%  
 D部門 5.7%  
 E部門 13.0%  
 F部門 5.4%  
 G部門 8.3%

<12/3期→21/3期の10年間>

B部門 5.5%  
 C部門 8.8%  
 2部門合計 7.3%(▲1.9%)  
 D部門 4.8%(▲0.9%)  
 E部門 11.0%(▲2.0%)  
 F部門 0.7%(▲4.7%)  
 G部門 8.7%(+0.4%)

注1：営業利益×0.7÷セグメント資産で計算  
 配賦できないHQコスト等の考慮はせず